



独立行政法人国立病院機構 横浜医療センター広報誌

はらじゆくかわら版

2024
夏



＜医師が語る疾患＞ 成人アレルギー外来

「夏の風物詩」 放射線科職員撮影

医師が語る疾患

「成人アレルギー外来」

呼吸器内科部長 ツリキサワ ナオミ 釣木澤 尚実

世界全体におけるアナフィラキシーの頻度は 0.3～5.1%と報告されており、私たちの日常においても決して稀な疾患ではなくなってきました。アナフィラキシー*1には必ず原因となる抗原があり、マスト細胞*2を介した IgE*3依存性の反応と IgE を介さない反応で起きることもあり、そのメカニズムは実に複雑であると考えられます。また食物アレルギーに関する診断・治療・管理は小児領域では確立されつつあるものの、成人の食物アレルギーに関しては未知のことが多く、診断や治療法に関しては確立されておらず、実際の診療では管理に難渋することが多いのが実情です。

私は呼吸器内科の中でもアレルギー疾患が専門なのですが、この病院に赴任する前から好酸球性多発血管炎性肉芽腫症や好酸球性胃腸炎、アスピリン喘息、薬物過敏症、成人の食物アレルギー、アナフィラキシーなどの疾患を診療してきました。当院に赴任後はこの地域の患者さんに少しでも役立つようにと、また当院の若手スタッフでアレルギー診療に意欲のある先生方の教育目的で「成人アレルギー外来」を開設することに致しました。

疾患は以下の4疾患が対象となります。

1. 成人の食物アレルギー
2. 薬物過敏症
3. アナフィラキシー
4. アスピリン喘息



アレルギー疾患の診療は問診が重要ですので、十分にお話を伺うため、毎週金曜日 15 時より 1 名としており、担当医師は交代制としています。予約、紹介状は前週の木曜日を締め切りとしています。

問診では時間的な経過で抗原が経皮、経気道、経口から入り、それぞれの臓器に対するアレルギー反応が起きることを詳細に聴取し、血液検査でアレルギーの素因を確認しながら、原因となる抗原が推定できたら皮膚を介してプリックテスト*4を行い、必要に応じて抗原曝露試験*4を行い、確定診断を試みます。

診断が確定しますとその後の生活指導が可能になり、患者さんの QOL*5は確実に向上します。また必要に応じてエピペン*6を処方します。

まずは毎週ひとりから診療を開始させていただきます。患者さんの需要が多くなった場合には外来コマ数の増加も検討いたしますが、対応するスタッフが異動するなど人員不足の状況となった場合にはこの外来は継続できなくなることも予想されます。その際には月曜日の新患外来（担当釣木澤）の外来予約を FAX や NET を介して取得していただけますと幸いです。

また病状が安定した場合にはかかりつけ医の先生へ逆紹介させていただきます。かかりつけ医の先生方との連携とお考えいただければ幸いです。

上記のアレルギー疾患の患者さんがいらっしゃいましたら、当科へご紹介いただければと存じます。

*1：アレルギーの原因となるものを摂取または接触した後に急激に出る症状 *2：アレルギー反応に関与する細胞 *3：免疫グロブリン E のことでアレルギーに関与するたんぱく質 *4：いずれもアレルギーに対する反応を評価する検査 *5：生活の質 *6：アナフィラキシーに対する緊急補助治療に使われる薬剤

職員リレー紹介

「地域と病院をつなぐ架け橋」

入退院調整センター 看護師長 小山 恵美



「入退院調整」を耳にしたことはありますか?もしかしたら馴染みのない言葉かもしれませんが。「入退院調整」とは様々な生活ニーズや課題を持つ患者さん・ご家族が退院後に患者さんの望む生活の場で安定した療養生活を送るために病院内や地域のサービス・社会資源を切れ目なく受けられるように療養生活を支援することです。

横浜医療センターでは 2023 年に入院調整部門と退院調整部門が統合され入退院調整を担う部門として入退院調整センターが新設されました。横浜医療センターの正面玄関を入っていただき、右側に入退院調整センターがあります。今回は入退院調整センターの役割について紹介します。

当院の入退院調整センターでは患者さんが安心して療養生活を送り、スムーズに生活の場へ戻ることを目的として患者さんやご家族の方と接しています。



入院調整では入院前に療養生活がイメージしやすいように説明を行っています。また、入院前の生活をお伺いし、状況に応じて退院調整看護師や院内の関連職種と情報共有を行い、入院後早期から退院調整ができるように連携を図っています。さらに薬剤師・栄養士も介入し、入院後の服薬指導や栄養指導に繋がっています。

退院調整では病棟ごとに配置されている退院調整看護師が医師や病棟看護師、地域の在宅支援担当者と連携を図り、患者さんやご家族の意向を確認しながら退院後の地域のサービスや社会資源の必要性について検討しています。

さまざまな診療科や医療ソーシャルワーカー・地域の訪問医・訪問看護ステーション等との連携を図ることで退院後も地域で医療や看護を継続することが可能となっています。

患者さんやご家族の方が安心して療養生活を送れるだけでなく、退院後の生活について常に意向を確認しながら患者さんが望む生活の場で過ごしていただけるよう入退院調整していきたいと考えています。また、より一層、多職種連携をはかり院内や地域一体となって入院前から退院後まで切れ目のない患者支援が出来ることを目指し、入退院調整センターが地域と病院をつなぐ架け橋になりたいです。

療養生活について不安やご心配がある方は入退院調整センターへお声かけ下さい。



YMC NEWS

診療看護師 (JNP:Japanese Nurse Practitioner) を紹介します

診療看護師は、厚生労働省が推進しているチーム医療の一端を担う役割を持つ看護師のことで、国立病院機構ではJNPと称しています。5年以上の看護師としての経験があり、大学院修士課程で医学の知識と特定の医療行為の実践能力を身につけ、認定試験の合格をもって認定される資格です。

JNPは、医師が行う業務（医療行為）を変わって行うことが認められています。当院では、医師の働き方改革などを踏まえ、タスクシフト（医師の業務の一部を看護師や薬剤師などに任せること）、タスクシェア（医師をはじめ、他の職種と仕事を分け合うこと）を推進しており、日々の診療でも安全を担保した形で診療を行うこととなっています。

安全で安心な診療を基礎としております。

※特定行為とは、厚生労働省が定めたドレーン管理や抜去、輸液管理などを
含み、現在では21区分38項目の行為が定められています。

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000077098.html>

厚生労働省のホームページもご参照ください。



マイナンバーカードの健康保険証利用登録はお済みですか？

2024年12月2日に現行の健康保険証の新規発行が終了し、マイナンバーカードの利用を基本とする仕組みに移行します。もしものときにも、マイナンバーカードがあればこれまでの医療情報などが正確に伝わるので、適切な処置につながります。病院でも、薬局でも、マイナンバーカードを利用しましょう。



〈マイナ保険証を使用するメリット〉

- ・病院での受付が簡単で、限度額以上の支払いが不要になる
- ・医療機関で薬の情報を確認してもらえる
- ・マイナポータルで診療情報や医療費控除の申請ができる
- ・引越しや転職してもそのまま使える など

横浜医療センターで利用登録ができますのでお近くの職員へお声かけください。マイナ保険証は来院の都度、読み取りをお願いします。



高校生1日看護体験を実施しました

2024年7月22日に神奈川県内在住、通学中の高校生を対象に「1日看護体験」を行いました。毎年人気のあるプログラムで、今年も募集開始早々に定員となりました。

暑い中参加してくれた高校生たちは、初めてのユニフォームに着替え、緊張した表情でスタンバイ。スタート時は院長や看護部長、事務部長からの話に耳を傾けていました。

〈体験メニュー〉

- ・ 車いす体験
- ・ 赤ちゃんのお世話体験
- ・ BLS体験
(心肺停止に対する一次救命処置)
- ・ バイタルサイン測定体験



4つのグループに分かれて、順番に体験していきます。車いす体験では「乗る（患者さん）側」と「押す（医療職）側」を体験。車いすはスピードを出し過ぎるととても怖い乗り物だと言う意見がありました。少しの段差でも衝撃が伝わりやすいので、ゆっくり丁寧に扱うコツを教わっていました。



赤ちゃんのお世話体験は、まだ首がすわっていない赤ちゃんの抱っここの難しさやオムツ交換を実際に行ってもらいました。



BLSは心肺停止の方に、人工呼吸や胸骨圧迫（心臓マッサージ）、AEDを実際に使う体験です。

バイタルサイン測定では、二人一組で血圧測定、脈拍計測、経皮的に酸素飽和度を測定しました。自動血圧計での測定と聴診法による血圧測定を実施しました。

体験した高校生からは「聴診法で音を聞くのが難しい」「心臓マッサージはかなり体力を使うし、（圧迫する）場所が合っているか不安」などの感想が聞かれました。

講師の看護師は「ユニフォームを着ると、本物の看護師に見えますね。そしてキラキラしていて眩しいわ!」と目を細めていました。今回の体験が、皆さんの将来を考えるきっかけになればとても嬉しいです。来年度も継続して実施したいと考えています。たくさんの方に参加いただけるよう、私たちも頑張ります。

リハビリ通信

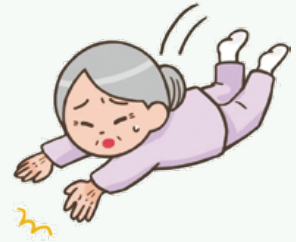
今号の“ハマの健康レシピ”はお休みです。



バランスについて

歩いて移動することや普段の日常動作などで転ばないように姿勢を安定して保つためにはバランス能力が必要となります。

バランス能力が低下すると、転んでしまい骨折する人もいます。普段住み慣れた家の中でも、寝室やトイレ、脱衣所、浴室などで転んでしまう場合もあります。大きな病気やケガをしていない人でも年齢とともにバランス能力が低下することが多いです。



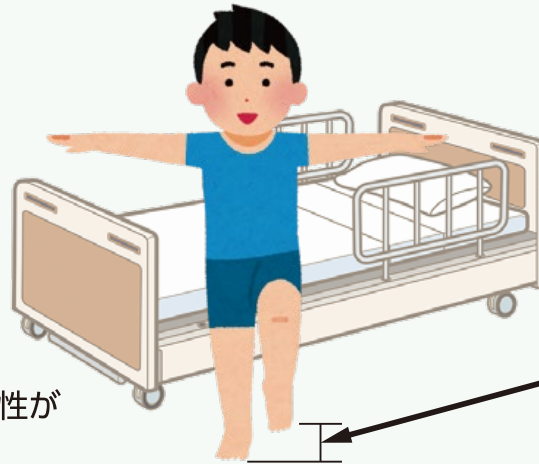
バランス能力の指標の1つとして【片足立ち】のテストがあります。

【片足立ち】はテストであり、トレーニングにもなります。トレーニングとして行う場合、ふらつきが強い時は無理せず掴まりながら行いましょう。

【片足立ち】

床から足裏が5 cm程度挙げて、立ち続ける時間を計測します。

15秒未満であると、転倒の危険性が高くなります。



5 cm程度

【注意点】

片足立ちを行い、転んでしまう危険性もあるので、バランスを崩しそうになっても、すぐに掴まることができる物のそばで実施します。

椅子の前方で片足立ちを実施する、ベッドの前で片足立ちを実施する、など実施する場所にも配慮すると、後方へバランスを崩したときに座り込むことができます。



病診連携施設紹介

立場メンタルクリニック

診療科：精神科・心療内科

日本精神神経学会精神科専門医 落合 雅人

日本精神神経学会精神科専門医 落合 智香

立場メンタルクリニックは市営地下鉄立場駅1番出口を出て、左手に見えるビルの2階にあります。1階にはコンビニエンスストアと薬局、2階には内科、3階には皮膚科、泌尿器科、4階には学習塾が入っています。当院は精神科・心療内科を標榜しています。



近年、メンタルヘルスを取り巻く環境は変化し、精神科や心療内科は身近なものとなってきました。当院は地域のかかりつけ医として、回復するまでのお手伝いをする相談場所として、不眠、不安、憂うつ、物忘れなどの症状に対し、

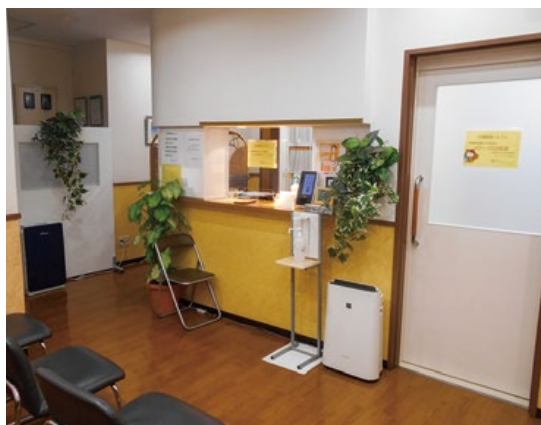
診断と治療を行っています。治療では、それぞれの方に適した薬物療法と精神療法を併用することで治療効果が期待できます。対話の中でそれぞれの方に合った生活を上手に組み立てていくことが、改善の近道であると考えています。

詳しい検査が必要な患者さん、入院治療が必要な患者さんに対しては、横浜医療センターにご紹介させていただくことが多くあります。いつも丁寧かつ迅速に対応していただいていますので、感謝しています。また、治療の継続のため、横浜医療センターから患者さんをご紹介いただくこともあります。

最近は生活環境が複雑となり、生きづらさを感じることもあると思います。このような時に自分の適切な居場所がわかり、安堵感を得られるようになれば、生きやすさを感じることも多くなるでしょう。診断や治療ももちろん大切ですが、福祉や地域とつながることで生活の場を見つけるということが、患者さんのみならず、家族全員に安らぎをもたらし、生活の向上につながると考えています。



これからもスタッフ共々地域の皆様のお力になりたいと思っています。



〒245-0015 横浜市泉区中田西1-1-27 ネクストアイ2F
TEL & FAX : 045-805-5106

〈診療時間〉

落合雅人医師担当	月	火	水	木	金	土	日
AM 9:00~12:00	—	予約	予約	予約	—	○	—
PM 2:00~5:00	—	予約	予約	予約	—	—	—
落合智香医師担当	月	火	水	木	金	土	日
AM 9:00~12:00	○	○	—	—	予約	○	—
PM 2:00~5:00	○	○	—	—	○	—	—

休診日：土曜午後・日曜・祝日

《診療のご案内》

* 当院は完全紹介制です。初診の場合はかかりつけ医等からの紹介状が必要です *

・ 初診受付時間は、午前8:30~10:30です。下記診療科以外は予約なしで受診できます。

＜初診時予約が必要な診療科＞

精神科、乳腺外科、緩和ケア内科、産科、呼吸器内科、脳神経内科

※ 当院で分娩を希望される方で、他院に受診が無い方は予約・紹介状なしでも受診できます※

・ 診察の予約や、CT・MRI等の検査予約は、かかりつけ医にご依頼ください。

(患者さんからの予約は受け付けておりません)

・ あらかじめ当院ホームページ等で休診情報、外来担当医表をご確認ください。



《交通アクセス》

【路線バスでお越しの場合】

・ 戸塚駅から

戸塚駅西口バスセンター2番のりばから
神奈中バス戸50、戸51、戸52、戸55、
戸56系統に乗車

・ 大船駅から

大船駅西口5番のりばから神奈中バス
船21、船22、船24、船25系統に乗車

・ 藤沢駅から

藤沢駅北口5番のりばから
神奈中バス藤54、藤55系統に乗車

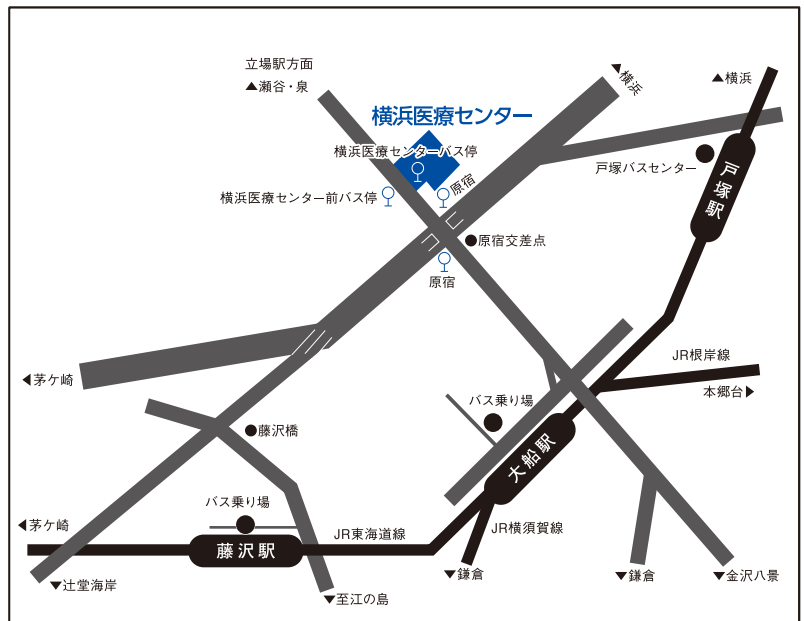
・ 立場駅から

立場バスターミナル4番のりばから
神奈中バス船21、船22系統に乗車

※ いずれも「横浜医療センター前」または
「横浜医療センター」下車

※ 大船駅東口から小型乗合バス「こすずめ号」で
「横浜医療センター」下車 (平日昼のみ)

* 横浜市戸塚区原宿3-60-2



【車でお越しの場合】

国道1号・原宿交差点から環状四号線を北方向に進みすぐ。

瀬谷・泉方面からは環状四号線を大船方面に進み、原宿交差点手前。駐車場555台(有料)あり。



《病院理念》

最適な医療を提供し、地域に信頼され共に発展する基幹病院として社会に貢献します。

＜基本方針＞

1. 患者さんの人権を尊重し、信頼関係に基づいた、安全で良質な医療を提供します
2. 地域の医療機関と密接に連携し、地域完結型医療の中心的役割を担います
3. 職員の教育研修の充実を図り、能力向上と人材育成に努めます
4. 臨床研究に積極的に取り組み、医療水準の向上に貢献します
5. 職員が自らの成長を実感できる、働きがいとなる病院をつくります
6. 健全な病院経営に務め、安定して持続可能な運営を目指します



独立行政法人 国立病院機構

横浜医療センター はらじゅくかわら版



<https://yokohama.hosp.go.jp/>



発行日：2024年8月(第84号)

発行行：横浜市戸塚区原宿3-60-2

横浜医療センター広報委員会

発行責任者：宇治原 誠

横浜医療センター病院ブログ

<https://yokohama.hosp.go.jp/blog/index.html>

